

# 寶相華

## 校章・校旗物語

会長 藤本 忠彦  
(昭31年卒)



校旗

### 宝相華文様の校章

大正十三年京都奈良市に創立の中学校に相応しい校章を考案するよう時の鈴木知事から命ぜられたのは、古社寺研究で名を馳せた県技師岸熊吉氏であった。(奈中10回卒で元檀原考古学研究所長・故岸俊男氏の父) 同氏は、天平文化の魂の宿る全国例を見ないものをと腐心し、実在の花ではなく極

### 宝相華会(同窓会)

#### 会報 No. 59

発行者 藤本 忠彦  
編集者 野崎 充亮  
発行所 奈良県立奈良高校同窓会  
印刷所 共同精版印刷KK

題字「寶相華」は天平時代の国宝「細字金光明最勝王経」より。(筒井寛秀《中11回》収録)

楽浄土に咲く、平和と平等と真実の花とされている宝相華文様を東大寺二月堂に描かれているものを参考にしデザイン化した。

### 紫紺の校旗

昭和四年五月五日春日大社において、紫地に金の刺繍で鮮やかに「奈中」の二文字を浮き彫りにした真新しい校旗の入魂式が厳かに執り行われた。

当時の金で二百二十五円を要し内五十円を第一期生・木基則家の寄付によるもので残りを生徒一人当り三十五銭ずつ集め作られたものである。その後総合制時代の桜模様時代のを経て、昭和二十七年普通課程のみに戻ったのに伴い元の奈中時代の校旗を文字修正のうえ復活した。ところが、五十年近く風雪

に耐えてきた紫紺の校旗も痛みが目立つこととなってきたので、昭和五十四年に新調することとなった。新調するからには、日本一のものを作ろうということになり、京都西陣の「つずれ織」による最高級品を二百万円で

発注した。これには元校長荒谷忠雄先生のご遺族からの寄付金と、教職員・育友会・同窓会の拠出金により賄われた。あれから年巡り三十周年を迎えることとなった。母校の益々のご隆盛を祈って止まない。

## 平成21年度

# 宝相華会総会

旧奈良中学・旧市立高女・奈良高校同窓会

日時 平成21年 4月12日(日)  
場所 なら100年会館 (JR 奈良駅西側)  
総会 午前10時～  
記念講演 10時40分～

「裁判員制度と身近な法律問題」

講師 金沢家庭裁判所長 紙 浦 健 二 (昭42年卒)

パーティー 12時30分～午後 2時30分 ホテル日航奈良 (JR 奈良駅西側)

会費 5,000円 (当日受付で戴きます。)  
但し、新入会員 (本年度卒業生) 無料。平成15年以降の卒業生 3,000円

……今回のお世話は昭和42年卒業生です。恩師の先生方も来ていただく予定です。お誘い合せの上多数ご参加下さい。

# 宝相華会八十周年を祝って

学校長 武村 純 一  
(昭42年卒)



ここ佐保路はまさに早春の息吹を感じる好季節になってまいりました。

宝相華会会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この一年、藤本宝相華会会長、沢井、中村両顧問をはじめ、多くの会員の皆様から何かとご支援をいただき、日々の教育活動に努めてまいりました。お陰をもちまして、多くの成果をあげることができました。本当にありがとうございます。ございました。

四月の宝相華会総会をはじめ、七月の大阪支部総会、十一月の東京支部総会にお招きをいただきました。毎年のこ

とながら、各界各層で活躍されている多くの先輩諸氏に出会い、またその凄さには圧倒され、あらためて奈良高校の偉大さを感じる一年でした。

また、恒例の創立記念講演には昭和五十二年卒業でフリーアナウンサーの都築由美さんをお迎えし、「豊かな日本語の話し手になるために」と題して、ご講演いただきました。講師先生の略歴、講演内容については別面に紹介されておりますが、話し下手な私にとっ て、上手く話すことより心が伝わる話し方という都築さんの言葉がなにか救いの手をさしのべていただいたような思いがいたしました。ご多忙にもかかわらず、母校のために時間をさいていただき、誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。さて、本年度は宝相華会発

足八十年にあたり、それを記念すべき事業として去る十一月十六日に旧母校跡（現春日野荘）において、「物故者慰霊祭」がご遺族をはじめ、宝相華会会長様並びに多数の関係者のご臨席のもと挙行されました。私も校長として、また遺族としてご招待を受け、参加させていただきました。

かねてご案内のとおり、宝相華会は、昭和四年、旧制奈良中学校の第一回卒業生七十三名の先輩方により設立されたことに端を発します。このとき、校旗の制定並びに入魂式が行われたことは既に周知のことと存じます。

爾来八十年、お陰様で、旧制奈良中学校、旧制奈良市立高等女学校、県立奈良高等学校合合わせますと、卒業生は三万三千人を越え、それぞれが各界各層で活躍されていることは本校の誇りであり、生徒諸君の励みにもなっております。

この間、節目節目に、同窓の先輩諸兄諸姉の深い愛情による、食堂・プール・庭園・記念碑・校旗新調・教材・甲

子園出場支援募金・セミナーハウス「宝相華」・部活動振興館「パラフォーラ」等々のご寄贈をはじめとする、幾多の力強い学校支援をいただいでまいりました。ご支援・ご協力を頂いた有形・無形のご厚情は、数え出すと枚挙に暇はございませんが常に諸兄・諸姉のご厚情を身近に感じながらの教育の営みは、本当に心強く、ありがたくこの場をお借りしてお礼申し上げます。

傘寿の年を迎えるまでには、幾多の困難を乗り越えられた先輩諸兄・諸姉のご活躍あつてのことと推察いたします。ご参列いただきました皆さまや所用でご参加いただけな

かった方々とともに、お亡くなりになった先生方や会員の皆さまに感謝し、ご冥福を祈り、併せて奈良高等学校宝相華会会員各位の今後のご健康とご多幸を祈り、また奈良高等学校益々の発展への努力をお誓い申し上げます。

最後になりましたが、輝かしい歴史と伝統を積み上げてこられました先輩の皆様改めて敬意を表しますとともに、宝相華会の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念申し上げます。さらに今後とも母校奈良高に對しまして、より一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 物故者慰霊祭を厳粛に挙行

宝相華会会長 藤本 忠彦  
(昭31年卒)

宝相華会発足八十周年を記念し恩師並びに同窓会員物故者を偲び追悼の意を表するた

昨秋十一月十六日旧校舎跡（大正十三年から昭和四十二年まで）の春日野荘において、ご遺族十九名・会員四十七名・

学校及び育友会役員十名合わせて七十六名の参列のもと厳かに挙行することができた。祭典は、井岡禎子副会長の司会進行によって始められ、追悼の祭文を東大寺長老・狹川宗玄師（奈中十回卒）から下記の通り賜った。

続いて藤本会長の慰霊の言葉・黙祷の後、母校コーラス部員二十五名による校歌及び鎮魂の曲の厳かな斉唱の内に参列者全員による白菊の献花に移った。

次に遺族を代表し第七代会長のご長男河合淳一氏と学校長の武村純一先生（故武村忠一教諭のご長男）からご挨拶をいただいた。

その後物故者名簿（確定二四九六名・推定四千名）を、宝相華会創立五十周年を卜して母校跡に建立した記念碑の下に、ご遺族を始め関係者が見守る中、沢井・中村両顧問の手により丁寧に奉納された。引き続き「物故者を偲ぶ会」に移り、東井三代治副会長の司会により進められた。沢井陽一顧問の開会の挨拶の後、ご遺族の在りし日の思い出を

鍵田忠兵衛氏（故鍵田忠三郎氏のご次男）始め各ご出席者から懐かしく語っていただいた。名残は尽きぬまま時がたち、中村顧問の閉会の辞により終了した。

このたび準備何かと不行き届きの中、お陰様にて滞りなく無事終えることが出来ましたのも、之偏に狹川宗玄先生、母校の福田先生始め関係の皆様方のお陰であると存じ心から御礼申し上げますと共に、改めて物故者の霊に対し衷心よりご冥福をお祈り致します。

祭 文

青丹よし奈良の春日山まぢかく、三笠の山の緑こく、水すずし佐保川、青山こもれるうるわし大倭のこの地に誕生した私たちの母校同窓会宝相華会が昭和四年、発足以来今年で八十年目を迎えます。これを機にここ母校の跡で天地清く澄み渡る霜月十六日、遺家族、宝相華会役員、学校関係者をお招きし、物故された恩師並びに奈良中学、市立高女、奈良高総合制、同全日制、定時制、通信制各課程出身の会員各位の霊を迎え慰霊の祭典を行うことになりました。本日の導師につきましては適任の方がたくさんおられますのに私を指名して頂き誠に恐縮しています。今日まで生を得て伝統ある宝相華会を代表してこの場所で導師をさせていただきます。頂くことは全く皆様方から命を頂いたおかげだと思っております。

物故された方は二四九六名の多きにのぼりますが、この外に多数の不明の方もおられますので、その数はもっと増えると思われれます。昭和の時代はその三分の一は戦争に明け暮れました。その為、皆様の中にはアジア、或いは南北太平洋などの各地で、尊い命を捧げられた方々が多数おられます。又若くして亡くなられ輝やかしい未来を絶たれた数多くの方々も、共にその無念さを思いやる時、お慰めする言葉もありません。皆さまは、それぞれの世界で有能な人物として活躍されました。又家族の主婦として主人を助け、或いは男子に負

けない仕事をされました。

私たちはかつてこの地で勉学に体育に文化活動に青春を力一杯謳歌してきました。ここに立って往時を思う時、文字通り走馬燈のように、なつかしい思い出が眼の前に浮んで参ります。かなわぬこと乍らもう一度、その時に戻りたい思いに駆られます。その時、必ず亡くなられた皆様の素晴らしい姿がそこにあるのです。

母校は皆様のおかげで名実共に奈良県下の優秀校の評価を受けています。今後共、母校発展の爲に益々のお力添えを頂き、又遺家族をご加護下さい。

おわりに昭和二年から昭和十八年まで私たちを教えて頂いた南 恒雄先生と、昭和十八年に卒業され、この六月に亡くなられた前 登志夫氏師弟の短歌を捧げ、ともども御冥福をお祈り致します。

おのが子の 答ふる姿 見つめます  
母のひとみは 沁みいるものか  
南 恒雄

紅葉の 山にむかひて ひらかれし  
扉の奥に みかびかれ來つ  
前 登志夫

皆様、八百萬の神々のしろしめす天上の国、又、み佛のゐます光溢るる極樂の世界、又天にまします神の天国、又、それぞれの理想の世界で、やすらかに、お休み下さい。



平成二十年 十一月十六日  
奈良中学校 昭和十三年卒業  
第十回生  
狹川 宗玄



## 母校創立記念講演要旨

(平20・10・31)

## ゆたかな日本語の話し手になるために

都 築 由 美 氏  
(昭53年卒)

私は高校を卒業して三十一年になりますが、この間今まで一度もここに足を運んだことはありませんでした。それが、今日こんな形でみなさんにお話ができることをとてもうれしく思います。先ほど

みっちゃん(紹介者大上美智子様)が私は高校生の時から、アナウンサーになるなと言っていたよ、と紹介してくれたんですけれども、確かにそうだった。でもみっちゃんが思っていたほど、必死でなろうと思っていなかったわけではないんです。けれどもね、その当時の生物の久保先生が言っていました。「何か絶対に夢を持ちなさい。それに向かって努力しなくてもいいんです。うすらぼんやりでもいい。届かないような夢でもいい。何か夢を持っていると、人というのは知らず知らずのうちにそれに近づいていくものなんだ。それは科学的にも証明

されている」とおっしゃったんですね。私はその言葉がすごく印象に残っていました。ですからみなさんにもぜひ夢を持ってくださいというのを伝えておきたいと思います。息子の同級生もこの中にいると思いますが、今日私は、都築君のおばちゃんとして話をします。たまたま奈良高校を卒業して、アナウンサーという仕事を地道ながら、細々とながら、続けてこられた、それも今日こうしてお招きくださいました同窓会の方々、奈良でお世話になっているみなさんのお陰だと思えます。そんなおっちゃんやおばちゃんがみなさんのまわりにもいっぱいいると思いますが、そんな大人の話を聞くことはみなさんにとってとても大事だと思います。これから生きていく上で、どういう職業について決める上でも、とても大事だと思う。ですので今日は一人のおばさんとして、今までの人生で経験したことをお話します。

今日のテーマは「ゆたかな日本語の話し手になるために」

普段何気なく使っている日本語に興味を持ってもらって、自分の言葉遣いをより充実させてもらえればうれしいです。では、私たちがまだ日本語を知らなかった生まれたばかりのころにもどって見ましょう。いろんな言語がありますが、その母音は十三種類だけです。そして生まれたばかりの赤ちゃんの脳は、人種、民族、男女を問わず、この言葉の基本的母音十三種類のどれにでも対応できるようにできているのだそうです。そしてその中から自分の母語に必要なものを選び取って、頭の中にインプットして、いろいろな母音を消し去っていくんです。この能力のことをマグネット効果と言います。そのマグネット効果は生後六ヶ月ぐらいでできあがります。こんな小さいときに脳の中ではすごい変化が起こっているわけです。そして一才になると必要な母音以外は全く識別できなくなるそうです。マグネット効果は一度形成されてしまうともう元には戻らないんです。これは人間にしかない能力で

す。サバンナで生まれたばかりのシマウマがすぐ立とうとする、そんな生きていくための能力と言葉の獲得は似ていると思います。そう思うと、言葉を大事にしようと少し思えるのではないのでしょうか。そういう言葉について、現在の人はどういう風に思っているのか、調べた結果を見てみましょう。毎年文化庁が行っている国語に関する世論調査です。

まず、「他の人の言葉遣いが気になるか」気になるという人が、七割で圧倒的に多い。続きまして、「今の日本語はどのような点で乱れているか」敬語の使い方、若者言葉、挨拶言葉、新語・流行語の多様という順で、いずれも六年前の調査より増えています。周りに、高校生の言葉が乱れていると思う人はほぼ半分います。日本人全般の国語力の課題として挙げられたトップスリーは、敬語の知識、五年前には選択肢がなかった他人の話を正確に聞く力、相手の立場、場面を認識する能力です。また別の、旺文社

の中、高校生対象の「日本をイメージする言葉を一つ挙げろ」という調査では、富士山、和、東京、注目したいのは四位のありがとう、七位こんにちは、十八位日本語そのもの、二十三位挨拶、二十六位おはよう、これらは五年前の調査では挙がってこなかったものです。これを見ると中、高校生も挨拶の大切さを感じていると思うんですね。みなさんは毎日ちゃんと挨拶していますか。挨拶は言葉の中身ではなく、挨拶をかわすことに意味があります。これをパティックと言います。言葉のやりとりで人間の絆を深めるんです。みなさんのメールもパティックではないですか。

このように一口に日本語といてもさまざまな役割があり、味わいがあります。国立国語研究所の前所長かみつろうという人が言葉の海にたとえてこう言っています。まず、若者言葉や流行語は表層水である。海の表面の入れ替わりがなくてはその命は保たれない、そういう意味では若者言葉は、言葉の世界に刺激を与えているのではないかと思います。続いて、中層水。中層水というのは、私たちが日常生活の中で使っていることば。これはあんまり動きはありませんよね。そして深層水。それにあたるのが、季語とか雅語、詩的な言葉。海の深い所を知らなくても航海はできます。つまりポエティックな言葉は知らなくても何も不自由はしないということなんです。でも、深海というのは神秘的ですよ。それがあることによって、海が豊かになっているのと同様に私たちの言葉の世界も深層水まであって初めてより豊かなものになると思います。

今はなんでも「かわいい」の一言ですませてしまうような傾向があります。そんな風にしていくと、観察力、表現力は広がらない、そして自身自身のもの見方も深まらない。自分の心と向き合っていきたいこととびったりな言葉を探して使ってください。また、同じ言葉でも言い方によって全く違うものになります。何を言うかよりもどう言うかが大切であるということ。今の若者は、以心伝心というのか、少ない言葉で、冗長度の低い言葉でやりとりをしているためか、他人を相手に、冗長度の高い会話をしなければならぬときもできない人がいる。「今何時。」「今は何時ですか。」という具合に言葉は長くなると丁寧に感じる。一歩外へ出たら、冗長度の高い日本語を使ってください。そのためには、友達、身内だけでなく、いろんな大人としゃべってください。日本人は見知らぬ人と話すのが苦手と言われていますが、その克服のためにも近所のおじちゃん、おばちゃんと話をしてみてください。

日本語ほど豊かな言葉はないそうです。例えば、雨にまつわる言葉は約四百語あるそうです。これは日本人の感性の豊かさを示しています。言葉を知ると、見えないものが見えてきます。語彙が少ないと感性、知性が磨かれないんです。表層水、これも大事です。仲間との絆を強くします。中層水、これは人間関係を広げます。そして深層水は感性を磨く、人生を豊かにする言葉です。それぞれをだいじにしてください。

じゃあ今お話したみたい、に、日本語の知識が豊富で正しい日本語を使っていれば、それで十分なんじゃないか。マラソンの円谷選手の遺書を紹介したいと思います。これを初めて読んだとき涙が止まりませんでした。流ちょうな言葉、美辞麗句ではない。でもここにある言葉には思いがこもっている。なんとか自分の思いを伝えたい、それが伝わってくる。だから話し下手でもいいんです。大事なものは伝えたいという思いです。その思いに後押しされたときには心の中から言葉が湧いてきます。人の心を打つ力強い言葉になると思います。でもそれは決してひらめきとか思いつきではないんです。それにはそれなりの日ごろの努力がやはり必要なんです。いろんな本を読む、いろんな人の話を聞く、そういう積み重ねがあると、何かに後押しされたとき、言葉はその人の中から湧いて出てきます。言葉はその人自身なんです。今は心の中で頭の中で言葉を蓄積して欲しいと思います。最後に谷川俊太郎の詩を贈ります。

~~~~~

**円谷選手の遺書**

父上様、母上様、

三日とろろ美味しうございました。干し柿、もちも美味しうございました。

敏雄兄、姉上様、

おすし美味しうございました。

勝美兄、姉上様

ブドウ酒、リング美味しうございました。

巖兄、姉上様、

しそめし、南ばんづけ美味しうございました。

喜久造兄、姉上様

ブドウ液、養命酒、美味しうございました。又いつも洗濯ありがとうございます。

幸造兄、姉上様、

往復車に便乗させて戴き有難うございました。モンゴ

いカ美味しうございました。

正男兄、姉上様、

お気を煩わして大変申し訳  
ありませんでした。

幸雄君、秀雄君、幹雄君、  
敏子ちゃん、ひで子ちゃん、  
良介君、敬久君、みよ子ちゃん、  
ゆき江ちゃん、光江ちゃん、  
彰君、芳幸君、恵子ちゃん、  
裕ちゃん、キーちゃん、  
正嗣君、  
立派な人になって下さい。  
父上様、母上様、

幸吉はもうすっかり疲れ切っ  
てしまって走れません。  
何卒お許しください。

気が休まる事もなく、ご苦労  
ご心配をお掛け致し申し訳あ  
りません。

幸吉は父母上様の側で暮ら  
しとうございました。

ことばのとおりに

谷川俊太郎  
読むだけでは美しいことばも  
ただの文字

しゃべるだけではりっぱなこ  
とばもただの音  
ことばのとおりに行うとき  
ことばのとおりに生きるとき  
あなたはほんとのあなたにな  
れる

私はほんとの私になれる

波紋のようにここにひろが  
る

かみなりのようにここをゆ  
るがす  
ここから生まれてここに  
とどく

ことばの力はこころの力  
多すぎることはさわがしい  
こころの底の静けさがこころ  
のふるさと

◆講師プロフィール

都築由美 (つづき ゆみ) 氏

県立奈良高校、関西大学  
文学部中国文学科卒業。大  
学在学中より奈良テレビ放  
送の番組に出演。大学卒業  
後、福井放送にアナウンサー  
として入社。その後、名古屋  
の東海テレビ放送に移り、  
ニュースキャスターとして  
ニューズ番組を担当。退社  
後、フリーアナウンサーと  
してNHK、FM京都、奈  
良テレビ、ラジオ大阪の番  
組に出演。現在は司会、シ  
ンポジウムのコーディネー  
ター、インタビュアー、朗  
読・語り、コミュニケーション  
ンや話し方をテーマにした

講演活動など、幅広い仕事  
に携わっておられる。近畿  
大学非常勤講師。

伊東裕君おめでとう  
全日本音楽コンクール  
チェロ部門第1位

記念講演の後、妙なる調  
べを披露してくれました。

〈曲目〉  
シューベルト  
アルベジョーネ・ソナタ

イ短調

〈ピアノ伴奏〉  
相愛大学講師

田口友子先生



恩師の便り

宿直の夜半、廊下に響いた不気味な音

馬嶋 玄 敏

元教諭(昭25〜36年迄在職)

時たまの事です。春日野荘  
で会合がある時、私は予定よ  
り少し早めに家を出て舟橋通  
りを経路に取る事があります。  
それは、この道は在職中の通  
勤経路だったからです。

昭和二十五年頃の近鉄油坂  
駅を始点に舟橋通りを歩くと、  
私に当時の記憶を次々と思い  
出させてくれるし、心は当時  
に還った様な思いにしてくれ  
るからです。また、この頃の  
木造校舎の奈良高校には、私  
の思い出がいっぱい詰まっ  
ています。何しろ私の二十代後  
半からの十一年間、この校舎  
で教育活動に専念していた時  
期だったからだと思います。  
今回はその記憶の一部を  
紹介致します。

当時の宿直は何日かの周期  
で順番が巡って来ます。その  
日は平素の学校勤務に引き続

いて夜間の校舎管理、そして  
翌日の夕刻までの二回の昼食  
と朝夕各一食を含む丸二日間  
の連続勤務です。宿直の日は、  
夕食を済まして八時過ぎにな  
りますと人の気配は無くなり  
ます。懐中電灯片手に校内を  
一巡します。次に校舎の周辺  
部を巡回して約一時間、夜中  
の二時から三時頃の時間帯に  
もう一巡の見回りで異常の無  
い事を確かめて、その日の始  
業直前までは爆睡です。時に  
は目覚めが遅れて、職員朝礼  
に遅刻しそうになった事もあ  
りました。

次の話は、年初の一月中頃  
だったと思いますが、夜半の  
宿直室が冷えるので背中に毛  
布をかけて、座机で授業の教  
材研究に没頭していた時でし  
た。突然「ギギー、ギギー」  
と廊下で響く音が聞こえまし



た。不審者の進入かと思っ  
て、服を重ね着して廊下へ出て  
ました。音が音の出場所が分  
からない。

暫く様子を伺っていたが人  
の気配は感じない。これが返  
って気味が悪い。暫く様子を伺  
っていた時に、またまた「ギギ  
イー、ギギイー」と先程の音  
が廊下に響いたので、音源の  
場所を求めて廊下の端まで行  
くと、柱と天井付近で乾いた  
木材が擦れて軋み合っている  
ような音が出ている。咄嗟に、  
気温の急降下が原因だろうと  
判断出来たので、やれやれと  
思った。こうして不気味な音  
の原因が解ってみると、それ  
まで高潮していた気分が治ま  
った。宿直室に戻って暖かい布  
団に潜り込み、その時は、一  
気に疲れが噴出してきて、深  
い眠りの淵に沈み込んでしま  
いました。

### ありがとう、奈高生！

西田 涼子

元教諭（昭60〜平10年迄在職）

「先生先生、ダブルいいで  
すか？」これは私が奈良高校  
在職中十三年間持ち続けた放  
送局員の言葉です。毎年七月  
末にNHK杯の放送コンテス  
ト全国大会が東京で開催され  
ますが、出場する生徒はNH  
K奈良放送局で講習を受けま  
す。その帰りに高天の交差点  
近くにあるアイスクリーム店  
で言われたのです。放送局は  
お蔭で毎年全国大会に出場で  
きました。アナウンス、朗読、  
番組部門で多いときには五、  
六人になることもあります。

その生徒が「ダブル」です  
から、支払う私はたまったも  
のではありません。でも局員  
は憎めない子達ばかりでした。  
私の奈高での思い出として放  
送局をまず挙げたいと思いま  
す。彼らは全校集会を始め様々  
な学校行事、特に創立七十周  
年の式典ではマイクのセッテイ

ング、ミキシング等、緊張の  
中で立派に役目を果たしてく  
れました。

十三年在職したにも拘わら  
ず、担任として卒業生を出し  
たのは一回きりです。それだ  
けに三年一組のメンバーは忘  
れられません。平成十九年の  
暮れ「卒業して二十年になる  
ので一度集まりましょう。」  
とS君が音頭をとってくれて  
クラス会を開きました。懐か  
しい顔が揃い、口を開けば高  
校当時そのままの軽口が飛び  
交いました。クラスは女性上  
位だったと記憶しています。  
その日もKさんにやり込めら  
れるF君、Y君らの会話を耳  
にして大笑いしました。出席  
者の中には現在母校で教鞭を  
とっている大西誠君の姿もあ  
りました。三年一組は非常に  
優秀なクラスで、京都大学に  
一番で入学した人もいます。

彼女は人間としてもすばらし  
く、クラスの誰もが畏敬の念  
を抱いていました。文化祭の  
バザーでは売り場付近の清掃  
に専念していたのが脳裏に焼  
き付いています。自分のこと  
よりまず人、といったHさん、  
入試の自己推薦文で私の推薦  
文を凌駕したI君、漫画家にな  
ったTさん、本当に個性的  
で私にとっては勿体ないクラ  
スでした。嬉しいことにクラ  
ス会の音頭をとってくれたS  
君の子供は孫のいない私をお  
ばあちゃんと呼んでいます。  
私が担任したクラスには他に  
も多くの忘れられない生徒が  
います。オーストラリア留学  
中の経験を面白おかしく語っ  
てくれたO君、同じクラスに  
いたKさんは現在放送関係の  
仕事をしています。

こうした嬉しい出会いが多  
かった中、悲しい別れもあり  
ました。奈高へはバイクで通  
勤していましたが、ある雨の  
日、いつものように図書館裏  
にバイクを置いて透明の青い  
ビニール製のレインコートを  
脱いでいたらT君が来合わせ  
ました。顔を合わせた途端

「先生、ゴミ袋着てるんでは  
か」と彼は憎まれ口をきい  
たのです。その彼は大学一年  
のとき東京で交通事故死しま  
した。また放送局員だったF  
君、彼は医者として患者さん  
第一を心掛け、仕事に忠実で  
あったがために過労死してし  
まいました。私の主治医にな  
ることなく…。

今思えば私は奈良高校で生  
徒に教えられることが多く、  
あの十三年間で成長させて戴  
いたと感謝しています。奈高  
生の皆さん本当にありがとう  
ございました。



# 近況のご報告

前川 嘉徳

(昭55年卒)  
元教諭(平4〜14年迄在職)



この写真は、昨年の八月に奈良市内で行ったクラス同窓会での記念写真です。前列中央に陣取っておられるのはもちろん、我が三年六組担任の矢和多先生です。卒業して二十九年が経ちますが、その存在は大きいものがあります。会うたびに我々の話題は、自分たちのことから子や親の話

題等に変化してきてはいませんが、先生の前では十八歳のままの自分でいられる安心感があります。現在は、東大寺学園中・高校の校長先生として、現場でバリバリと教育に携わっております。

会中は中盤を迎え、各自の近況を報告。そこでの上田さんからの話を紹介させていただきます。

上田さんは、在学中から服飾に興味を持ち、奈良女大の家政科に進学、卒業後ファッション商社の総合職に就きましたが、今ほど女性の仕事が社会的に理解されていなかった当時は、結婚・出産により慣例的に退社しました。その後も、もっとデザインと心理について研究したいという思いをもちながらも時間が過ぎました。しかしながら、四十

歳を機に大学院に通い始め、後期博士号を取得。現在は関東の大学で「服飾環境学(ファッション心理学)」を学生に教えておられるとのこと。彼女曰く、まだまだ夢の途中です。

### 感動・拍手の嵐

夢に近づくには、それを達成するための環境整備。チャンスと感じたら即、実行に移す勇氣。やり通す意志の強さ。が要求されます。我々にも言えることですが、現役学生の方には是非、『チャレンジ精神』を大切に、夢を追い続けてほしいと思います。

話は変わりますが、私は現在、郡山高校で化学を担当しております。高校在学中にはもちろん矢和多先生に化学を担当していただき、十年間の母校勤務中には教科だけでなく色々なことを、多くの先輩の先生方から教えていただきました。その頃の経験が今の自分を支えてくれていると、とても感謝しております。

さて、今年の七月二十八日〜八月二十日の間、高校生最大のスポーツの祭典「近畿ま

ほろば総体」いわゆるインターハイが県内各地で十五競技開催されます。その間訪れる選手・監督は約二万人。観客を含めるとのべ四十四万人の方が期間中に来県されるそうです。われわれ教職員はもちろん、現役生の皆さんは選手として、また補助員としてこの大会に参加します。会員の皆様方も現役時代を思い出され、会場の方に足を運んでいただ

## 大阪支部だより

副会長・大阪支部幹事長 東井 三代治  
(総2回卒)

### 【予告】

『平成二十一年度  
大阪支部懇親会』

### 場所

大阪市北区芝田  
一―一―三五  
新阪急ホテル  
(六六三七二―  
五一〇一)  
二階宴会場 花の間

### 日時

平成二十一年  
七月十七日  
(第三金曜日)

### 受付

十七時十分  
開宴 十八時

### 開宴

十八時三十分

### 会費

八、五〇〇円



けたら幸いです。詳しくは、大会実行委員会のホームページを参考にしてください。  
<http://www.09soutai.com/>



○三十六回大阪支部総会兼懇親会は、毎年七月第三金曜日に、行われてきましたが、今年始めて祇園祭とかさなりました。

好評のビンゴゲームの景品は、祇園祭に因んだ品も用意致します。

同窓の方の沢山のご参加をお待ちしています。

『三十五回大阪支部懇親会』

昨年の七月十八日に新阪急ホテルの間で行われました。奈高武村順一校長や藤本忠彦本部長、阿部洋巳東京支部長、青垣サロンの村上泰昭代表と、今西宏事務局長等の参加を頂き、会は植山悦子、山田育男の司会で盛大に行われた。

会は、中村勢津子のピアノの演奏で校歌合唱から始まり早川和男支部長の開会の辞、藤本会長の本部報告の後に、中村勢津子アルト歌手の『愛の歌』のコンサートが。最後に、全員で学生時代を合唱。玉田健幹事の乾杯で懇親会が始まりました。宴の半ばで武村順一校長の、

文武で活躍する母校の報告後恒例のビンゴゲームが行われました。総数六十個の豪華景品を提供された同窓生に心から感謝いたします。

歴史環境が人をそだてる

副会長・大阪支部長 早川 和男  
(総2回卒)



ハンガリー政府文化省の招待でブダペストを訪問しました。ホテルに着くとすぐに国立博物館へ案内されました。そこでは一つの写真展をやっていました。

テーマは「僕らの孫も見えるかな」  
ブダペストの街から歴史景観や自然が消えている。毎日のようにそれを目にしていた一人のカメラマンが、テレビ

吉本仁三の閉会の辞で、名残を惜しみつつ、次回の総会の再会を誓い閉会しました。

を通じて呼びかけました。

「こどもたちのために、まじの歴史と文化を残そう。何でもよい。孫にのこしたいと思ような景色を写真にとって送れ」と。

文化省はそれを後援しているのでした。博物館のホールに並んでいる写真はさまざまでした。古色蒼然とした石造の街なみ、ドナウ河の岸辺、教会、花いっぱい囲まれたレストラン、古い倉、道の真ん中にそそり立つ大木、葡萄畑の稜線、小川や橋や小道もある。観光資源に止まらず、何げない風景もあります。そこで育った人たちには貴重な

心の故郷なのでしょう。

この展覧会が行われたあと、町を見る市民の目が変わった、といいます。今まで見過ごしたり何げなくかわしていた町の中の自然や景観を、市民は大切にしようになったそうです。

『スモール・イズ・ビューティフル』の著者シューマツハは「教育の本質は価値の伝達である」と言っています。だが、価値を伝達するのは教育だけではありません。地域の中に結晶した「歴史的価値物」が人を育てる、歴史環境は教育環境であり福祉環境であり、それを次の世代に残したい。そういう人びとの思いを、この写真展は示していました。

次いでポーランドのワルシャワを訪れました。  
ヒットラーは国をほろぼすにはその国の人間をすべて抹殺する必要はない、その民族が培ってきた歴史文化遺産を無くせばよい。人々の誇りは消え去り、ただの人間の集団になってしまふ、という独自の考えを持っていました。

そこで、ポーランドという国を「滅ぼす」(併合)ために、王宮や市民が様々の記念日などに集まっていた広場(スターレ・ミヤスト)、それを取りかこむ建築群、その他の歴史的建造物を破壊してゆきました。破壊の痕跡はいまも保存されています。

解放後、ワルシャワ市民は歴史地区の復元を石畳の修復などから始めました。食べるものを節約しても王宮の復興にとりくむその姿は、世界から嘲笑を受けました。だが、彼らにとってそれは、民族の誇り、生きる依りどころをとり戻す他にかえられない事業だったのです。

私は、歴史的環境はそのまじ固有の文化であり、そこに住む人たちの誇りと心のゆたかさを育む土台であると考えてきました。二つの国のとりくみを見て、その考え方に深い感動をおぼえたのでした。  
作家の井上ひさしさんは、以前こんなことを言っていました。「京都にノーベル賞の受賞者が多いのはまさに歴史があり、風景がよいからです

よ」と。あながち、無関係とは言いきれません。歴史環境は人の思考力を涵養すると考えるべきでしょう。

さて、私たちの住む奈良はどうでしょう。いうまでもなく日本でも有数の歴史文化都市です。もしこの奈良から、東大寺、興福寺、春日大社、奈良公園、猿沢池、春日山などなどすべての社寺仏閣や歴史文化的建造物や自然、あるいは街の中の各所にある歴史の痕跡がなくなれば、奈良というアイデンティティは消え、ただ人が住むだけの場所になってしまいます。奈良というまちに生まれたり育った私たちの誇りはなくなるでしょう。自分たちの住む街の歴史環境に目を向けることは、人間性回復のひとつの課題といえるかもしれません。

のどこに住んでも、安全で安心して生きられる「居住福祉社会」実現のためです。それを可能にするには、住む主体である市民自身に町のすべてを居住福祉の視点から見つめる目を養うことが必要です。「地方分権」「自治」「住民参加のまちづくり」などといっ

### 東京支部だより

東京支部副支部長 坂口尚史 (昭36年卒)

平成二十年度の寶相華会東京支部総会は、十一月八日(土)に例年どおり皇居桜田門に近い法曹会館で開催され、五十五名の会員が出席した。奈良高等学校から武村純一校長、高林伸年事務長、寶相華会本部から藤本忠彦会長、東井三代治副会長には遠いところご出席いただきました。

でも、住民にそのような目が必要なければ困難です。これからの学校・社会教育、文化・環境・福祉行政、等々の中心課題の一つといつてよいでしょう。(参考文献・早川『居住福祉』岩波新書、『居住福祉資源発見の旅Ⅱ』東信堂)。

来賓の武村純一校長と藤本忠彦会長の祝辞を頂戴した。第二部の記念講演では、森本和滋氏(昭40年卒)の『薬出づる奈良からジュネーブへ』「おおきに」の心と健康」と題した、病氣と医薬品のお話をきいた。森本氏は元WHO/EDM必須医薬品・医薬政策部課長であり、スイスのジュネーブやアフリカにおけるWHOの仕事の体験談をまじえて、映像を見せながら話を進めた。話のながれは、「薬出づる奈良」に始まり、「世界

の医薬品の課題と私のWHOミッション」以下、エイズ治療薬や脳内汚染と健康障害のテーマも含む興味深い内容であり、「奈良の心と健康」で締めくくった。講演後、活発な質疑応答があった。

### 東京支部総会の記念講演要旨

(平20・11・8)

## 薬出づる奈良からジュネーブへ “おおきに”の心と健康

森本和滋 (昭40年卒)

今年の一月、奈良観光ガイドブック冬号「薬出づる奈良へ、健康を願う心の旅」の小冊子を奈良県東京事務所の方が届けてくださいました。大

変よくまとまった内容で、奈良が誇る美しいお医者さん、薬師寺の薬師如来の写真、陀羅尼助、三光丸等の配置薬の解説は、子供の頃大変お世話





になった薬のことなど思い出す機会となり、本講演のタイトルにも使わせて頂きました。おおきに！

二十一世紀最初の新しいアウトブレイク SARS (重症急性呼吸器症状群) に WHO はどう迫ったか？当時、ジュネーブ本部に勤務しておりまして、どう中国から世界に拡散したか、臨床と治療と予防法は？切迫した緊急課題でした。そんな中、WHO ベトナム地域事務局の現職の仲間が SARS の犠牲となりまして。予防の話では、私の習慣になっている鼻うがいの効用は、数回の中国出張の折も実証済みでしたので紹介しました。講演後色々な方からそのやり方を聞かれました。微量の食塩を水に溶かして、コップを鼻につけてストローのように吸い、口に流して洗う。

比較的に簡単に出来るもので、一度試してみてください。

世界の医薬品の課題と私が担当した途上国支援医薬品品質向上 WHO/EDM/SPMI プロジェクトの紹介も、南アフリカでのワークショップの写真やジュネーブの写真も入れながら説明したので、かつて当地を旅行された方も何人か会場におられて盛り上がりました。研修教材 CD-ROM の開発と各国政府への配布「おおきに」の国際協力の例も紹介しました。

続いて HIV/AIDS 治療薬の開発と国際保健のせめぎあい、莫大な開発費をかけ、基礎研究から臨床試験までの長期間の試験を経て、ようやく産声を上げた高価な医薬品抗レトロウイルス剤、この薬の値段を低下させる措置（一〇〇万円/人）（二〇〇〇年）↓二万円/人（二〇〇五年）、地球規模での AIDS の闘いのための資金調達の話は、興味を持って聞いて下さいました。本薬は、患者が生涯服用し続けなければ効果を発揮し

ないことは、余り一般には知られていないように思いました。アナン事務総長のノーベル平和賞受賞決定「おおきに」の挨拶を、十一月に本部のフォーアードで聞いたことも紹介しました。

次に、最近我が国で承認された医薬品として、新型インフルエンザワクチン、根治切除不能な癌の治療薬、難病の遺伝子組換え医薬品等を概説し、目覚ましい医薬品開発の進歩の例として、ゴーシェ病のバイオ治療薬について実際に審査した経験、国際シンポジウムで本薬の恩恵を受けた米国シアトルの弁護士からの「おおきに」講演を聞いた感動も話しました。最新の新薬承認情報は、医薬品医療機器総合機構の HP (<http://www.pmda.go.jp/>) の承認情報のサイトで見る事が可能です。

二年前「脳内汚染」(岡田尊司 文藝春秋社)との出会いから、コンピューターゲームと青少年の脳の健康障害の問題に興味を持ち始め、文献検索によって関連性の認めら

れた五十五件の国際学術情報を解析し、総説論文に纏めました(森本和滋・聖書と精神医療、29、77、2008)。子供たちの脳の健康をいかに守っていくかは、現代の大切な課題であると思います。孫にあげたゲームソフト「おおきに」が、数年後悲惨な事態を招く可能性を知って欲しかったのです。今年五月東京国立博物館の薬師寺展に行き、月光菩薩の前でその奥深い美しさにしばらくたえず、心穏やかな心を戴いたこと、心ふるさと奈良に「おおきに」で終了とさせて頂きました。

最後に、ジュネーブへの軌跡を少し紹介させて頂きます。岐阜薬科大学、阪大・薬学部大学院を経て、昭和四十八年厚生省に入省(国家公務員試験・上級・甲)、国立衛生試験所で公務員生活をスタートし、一九八四年ペンシルベニア州立大学・医学部・癌研に博士研究員として留学後、



国際会議に出席する機会も急増して、国際公務員への挑戦の思いが生まれました。二度の挫折後、一九九九年不思議な縁で WHO 本部への道が開け、二〇〇三年帰国と同時に厚生労働省を退職しました。五回連載で「薬学生が国際的な仕事に就くためのロードマップ」(PHARM TEC JAPAN: 24, 493-496, 2008(出版社はほう))を執筆、ご興味のある方は御覧ください。(二〇〇八年十二月一日)



# 神宮外苑から新宿御苑周辺を散策

杉 美知男  
(昭32年卒)



東京支部の同好会「首都圏近郊散策の集い」は、去る十月十八日に「新宿御苑周辺の散策ウォーキング」を実施しました。絶好の秋日和に恵まれ、紅葉で有名な外苑イチョウ並木（後一ヶ月もすれば素晴らしい紅葉が見られます）を通り抜けて、東京オリムピッ

クで賑わった国際競技場など多くのスポーツ施設や聖徳記念絵画館を眺めながら、新宿御苑へと向かいました。新宿御苑は、徳川家康の家臣・内藤氏の江戸屋敷の一部がそのルーツといわれており、広さ約十八万坪の広大な園内には、フランス式整形庭園、イギリス風景式庭園そして日本庭園が巧みにデザインされ、明治を代表する西洋庭園といわれています。大木戸門から入園し、公園の樹木や草花を觀賞しながら、自由な散策を楽しみました。公園があまりにも広大なためすべてを見尽くすことをできず、再来に期待して新宿門から退園し、JR新宿駅南口を目前に流れ解散となりました。今回の参加者は山口芳子（昭32）と友人（四人）、伊達悦子（昭32）、

播道子（昭32）、米山誓都子（昭33）、藤森彰子（昭33）、野中喜代子（昭33）、民谷節子（昭33）、高野史（昭40）、森本和滋（昭40）と私を含め

## 歳 歳 回 向

て十四名です。（写真は新宿御苑―新宿門にて）  
次回は平成二十一年四月十八日（土）に実施を予定しております。

村上 泰 昭  
(中20回卒)



昭和五年（一九三〇）生まれの我々の年代は、はや八十八歳への橋を互らうとしていて残された人生を如何に日々過ごし、また天命を終えるかの課題を背負っている。自己の实在価値は永遠の輪廻の過程の一齣と観想すればそれは年々

が一里塚なのであろう。この様に考えると、健康で長生して社会に貢献するため過去を回想するよりも未来志向で社会に貢献し得る人生を求めて努力したいと思っている。今日この頃である。奈中の伝統は社会に貢献する人物の育成であったが、この精神を踏まえ、我々同窓生は社会奉仕活動の「寧楽文化講座」を開催し、卒業生各位の協力も得て二〇〇八年十一月で三十一回の講座を開講した。更に平城遷都一三〇〇年祭に因んで天理―奈良間の山之辺の道を顕彰しその自然景観保存を将来図るため安全に歩くための路の選

定を行なった。これに対し奈良市からの支援を得ることにしたのは選定通路所在の各区の協力と同意を得た画期的なことによるもので、これにも宝相華会会員からの支援があった。私個人の奉仕としては、角川書店の『日本陶磁大辞典』（平成十四年）に大和の陶器「赤膚焼」などの執筆をした関係で、赤膚焼窯元を事務局として「赤膚焼研究会」を関係者と二〇〇一年に立ち上げ、年三回乃至四回の公開研究会を実施し会報への論考執筆を続けている。更に石造文化を通じた日中文化交流の三年間に互る実態を調査するため、若手研究者と共に日中共同調査に参画し、二〇〇八年度の一週間の寧波での考察を終えたところである。私の健康方法は未来志向で何時も二十歳若く志向し生活のリズムを保つ事にある。旧奈中20回卒を代表して執筆の依頼を受けて、送付されて来る会報を読んで感じていたことを率直に述べると、新しい二十一世紀の同窓会報の編集に、明日への教養の糧となる記事

浙江省・邱隘鎮横経村陳氏祠堂にて。  
陳氏宗譜を持つ陳氏と筆者

「健康医学・文化・随想」などの卒業生による奉仕の執筆で充実させ、全国にない特色ある同窓会会報にならないかと云うことでありこれを期待するものである。許された字数内で故郷奈良の陶器「赤膚焼」の歴史について紹介し、その歴史の古さについてご認識頂ければと思う次第です。

「赤膚焼」・奈良の店に「奈良絵」の茶碗・湯呑などが並んでいて購入すると簡単な説明書が付いていて、多くは小堀遠州の七窯の一つとしている。前述した「寧楽文化講座」を同窓会館で実施した際に、奈良高校の建設時に出ていた粘土で焼いた茶碗を美術担当先生が持参されたが、校舎のある佐保丘陵は良質な陶土の宝庫でその地帯は佐紀秋篠から大和郡山方面に広がる。この土を利用して埴輪・土師器の生産が行われていて、その中心は秋篠寺付近と西大寺近くの菅原地域で、そこは古代有力氏族の土師氏の本源地で、特に菅原道真の先祖は居地によって土師を改めて菅原氏と改名したことが『続日

本記』に記載されている。秋篠寺と西大寺の間の丘陵の谷間、その奥地は現在の「あやめ池」で、ここに大きな池が作られていて奈良時代の地図に「赤皮田池」と表記されている。この池の跡地は現在でもそれに因んだ「赤田町」で、この名称は鉄分を含んだ赤い土の池底でそれが土器・埴輪生産用の土として利用されていたことを物語っている。平安時代以降室町時代にかけて土師器を生産していた人々の子孫は興福寺の庇護のもと「火鉢・炮烙・土風炉」の生産にのりだし室町時代には薬師寺領内から採土しその代金を寺に支払っている。特に火鉢は全国津々浦々に出荷されており土風炉は奈良名産品として知られた。江戸時代延宝年間になって大和郡山城の拡張工事が決定されて、土器生産にあたっていた人々の中世以来の居住地、平城京九条の西が城内に取り込まれることになり、全村が移動することになった。この時の幕府の政策実行責任者は五畿内奉行の小堀遠州で、彼の父が豊臣秀

長に仕えていたので大和郡山城内に幼少時に住み大和を熟知していた。このため土器師達の行先を考慮し、陶器生産の窯の導入を指導し、その存続継承を図り彼等の歴史に因んで「赤膚山」の銘を贈ったと考えられる。地元にはその由来の伝承と贈られた刻印の「赤膚山」の作品が伝世しているが、近年薬師寺講堂発掘で本尊中央下の基壇部に埋められていた鎮壇具の小壺五個に遠州印があり伝承の正しさが判明し遠州七窯の由来が明らかとなった。



寧波・七佛寺開祖唐代心鏡禪師真舍利塔調査記念撮影部分  
左から二人目筆者・右住持釈可敏祥法師

## ユニークな第一回 総合制卒業式など

嶋田 彰 治  
(中20回卒)

から三年余り経過し、軍国主義(右翼教育)に替って民主主義の時代になっていたが、正確には民主主義について試行錯誤の時代であった。教育界も例外でなかった。そして、制度改正のため、生徒の経歴も多種多様であった。

**高校三原則の実施**  
六三三制がスタートした当初は、旧制中学、女学校、商業学校などの職業専門学校は、それぞれの歴史を背負って、そのまま新制高校に移行した。しかし直後の六月末、「高校三原則」がGHQより指示された。三原則とは①男女共学、②学区制、③総合制である。三原則は二学期(九月一日)により施行された。



まえがき

昭和二十三年四月、GHQ(連合軍総司令部)の命令で旧教育制度は廃止され、現在も行われている六三三制教育がスタートした。そして、新制度による高校(当時は「新制高校」といった)第一回卒業式が、昭和二十四年三月に行われた。今春は満六十年の節目の年である。薄れている記憶を辿り、当時のことを書いてみたい。

**当時の教育**  
中20回卒の私はもう一年母校に通って、「総合制第一回卒」にもなった。当時、敗戦

このため、奈良高校(旧奈良中)、奈良市立高校(旧奈良市立高女)、奈良商工高校

(旧奈良商工業高校)は強制的に合併させられ、奈良高校(総合制)が発足した。

さらには学区制施行のため、強制的に居住地に近い高校に転校させられる生徒も生じた。具休例をあげると、奈良市居住の郡山高校生は九月一日より奈良高校生になり、その逆に生駒郡居住の奈良高校生は郡山高校生になるといふ悲劇?も生じた。

旧教育制度の浪人

中20回卒は旧制度で受験し、不合格者は例年ならば浪人になるにもかかわらず、制度改正のお陰で一浪せずに、自動的に総合制三年生に転入学した。その他受験せずに不合格者と同様に三年生に転入学する者もいた。

さらには、中19回卒で二浪した数名は、旧制中学卒のままで、昭和二十四年度に発足した新制大学の受験資格がなく、そこで三年生に編入学した。言い換えると、彼らは旧制中学卒業一浪し、その後一年留年したような状態になった。

総合制の卒業式

前述のように、①奈中20回卒、②市立高女2回卒、③奈高工卒、④奈中19回卒の浪人⑤二学期からの転校生、とさまざまな教育課程を辿ったため、同級生だけでなく、一度も一緒に学んだことのない者あるいは半年だけ(昭和二十三年九月以降だけ)一緒に学んだ者が一堂に会し、昭和二十四年三月一日、第一回卒業式が行われた。場所は旧奈良中学の正殿(事実上は講堂だが、奈中では正殿といっていた)であった。

ユニークな卒業式

試行錯誤の時代であったため、ユニークな卒業式が行われた。敗戦後のため、国旗は掲揚されず、国歌君が代も歌われなかった。校歌も未だ制定されておらず、当然歌うこともなかった。

卒業証書は代表に授与されず、今卒業生に一人ずつ授与された。氏名を呼ばれた卒業生は向かって右側の階段を昇り、壇上で太田校長より証書を受け取り、左側の階段を降り自席に戻った。この間、荘

重な音楽がレコードで流された。曲目はワグナー作曲、歌劇タンホイザーの「大行進曲」であった。

証書の授与は、普通科、職業科別で五十音順であった。校長先生はほとんどの生徒の顔を知らなかった。卒業証書は五十音順(呼ばれる順)に予め重ねてあり、機械的に授

扇田俊明氏が二〇〇七年

ノーベル平和賞に貢献

IPCCが認定書を授与

与された。無断欠席者がいなければそれでよかったが、無断欠席があったため、最初の若干名を除き大半は他人の証書を神妙に受け取り、式典終了後大騒ぎをして卒業証書を交換した。

高校三原則のうち男女共学のみ現在も存続している。

藤田守弘

(昭33年卒)

与されたことはご存知のとおりです。

受賞理由は、「人為起源による気候変化についての進んだ知識を確立・普及させるとともに、その変化に対する必要な対応策の基盤を築く」という努力に対してのものとして承知しています。現在の間人活動がそのまま続けば地球の温

暖化を加速し、地球環境に破滅的悪影響をもたらしかねないという警鐘を鳴らし、世界的な温暖化防止活動を促すなどの功績が評価されたものでしょう。

IPCCは、気候変動に関する科学的情報を包括的に各国政府に提供することを目的として、一九八八年に世界気象機構(WMO)と国連環境計画(UNEP)の共同管理で設置された国連の機関です。政府間パネルという名称ではありませんが、各国の政府関係者だけではなく、世界中の多くの科学者や技術者、経済学者などからの幅広い知識を集めて、地球温暖化に関する科学的知見や対策技術の可能性と効果などを取りまとめた評価を行っており、この評価報告は国際政治や各国の政策に大きな影響を与えています。IPCCでは、今回受賞したノーベル平和賞はIPCCの評価活動を実際に担当したすべてのメンバーに与えられるものであるとして、特にその貢献度の高い人々にその旨の認定書を贈っています。奈



良高校出身の扇田俊明氏（昭和33年卒）がその一員に選ばれました。

扇田氏は、奈良高校から京都大学工学部に進み、卒業後、富士電機において原子力の安全性に関わる研究に従事し、野村総合研究所に移ってからエネルギー、原子力問題を中心とした技術経済的側面の調査研究を担当し、株式会社技術経済研究所を設立以降は、更に、新エネルギーや地球温暖化問題の調査研究まで幅広い活躍をされています。

地球温暖化問題に関しては、IPCCが設立される一九八〇年代末から、世界主要国・地域の政策や国際機関の動向等の調査をはじめ、温室効果ガス排出量の算定・予測、温暖化防止対策技術の調査や経済性の評価など、長年にわたり、数多くの調査研究を実施しておられます。

特に、温室効果ガスの中でも、主として産業プロセスから排出されているフッ化ガス（HFC、PFC、SF6）に関しては、わが国における調査研究の中心となって、環

境省や産業界をリードしてこられました。フッ化ガスは、二酸化炭素(CO2)やメタンガス(CH4)、亜酸化窒素(N2O)に比べれば量的には少ないものですが、化学的に安定な人工のガスで、CO2の数千倍から数万倍という極めて大きな温暖化能力を持ち、大気中に排出されても寿命が長く、長期的には温暖化への大きな影響が懸念されています。一方において、その化学的、物理的に優れた特性から、近代工業製品に欠かせない材料物質となっており、先進国を中心にその利用が急速に拡大しているため、排出量削減の対策が厳しく要求されているものです。

IPCCには三つの作業部会（気候システム及び気候変動に関する科学的知見の評価を行う第一作業部会、気候変動に対する社会や生態システムの脆弱性と気候変動への対応策の評価を行う第二作業部会、温室効果ガスの排出量の抑制と気候変動の緩和策を評価する第三作業部会）と、温暖化問題の様々な研究や対

策の立案から国際条約の交渉・実行などに不可欠の基本的情報である、温室効果ガスの排出量目録作成に関するインベントリー・タスクフォースが設置されています。扇田氏は、一九九七年から二〇〇一年にかけて、このタスクフォースのサポートに専門家として参加し、二〇〇〇年にはIPCCの「温室効果ガス排出量算定のグッドプラクティスガイドライン」の作成（フッ化ガス部門を担当）に携わるなど大きな貢献をしました。

策の立案から国際条約の交渉・実行などに不可欠の基本的情報である、温室効果ガスの排出量目録作成に関するインベントリー・タスクフォースが設置されています。

扇田氏は、一九九七年から二〇〇一年にかけて、このタスクフォースのサポートに専門家として参加し、二〇〇〇年にはIPCCの「温室効果ガス排出量算定のグッドプラクティスガイドライン」の作成（フッ化ガス部門を担当）に携わるなど大きな貢献をしました。

また、ノーベル平和賞の受章を受けて、この扇田氏の貢献を高く評価したIPCCから、昨年11月に認定書が送られてきました。この認定は昨年もつと早くに決まっていたそうですが、扇田氏の事務所の移転などで郵送物が再発送され、認定書が届くのが遅れたようです。

また、東京では、地球温暖化問題を中心的課題として取り組み、気候変動枠組み条約や京都議定書を巡る国際交渉や世界主要国の政策動向の調査分析を続けておられます。

このような地球環境の保全を通して、世界の安寧と平和に貢献している扇田氏の業績を我々同窓生、ならびに宝華会員は大いに賞賛し、誇りと致したく簡略ながら報告させていただきます。

なお、扇田氏は、現在熊本で農的生活をしながら、東京では調査研究活動をされています。

ノーベル賞認定書

2008年11月10日

拝啓

2007年にIPCCに授与されましたノーベル平和賞の受賞認定書を謹んでお送りいたします。

この高名な賞の栄誉は、IPCCの活動に大いなる貢献をされました貴方や他の協力者のものであります。

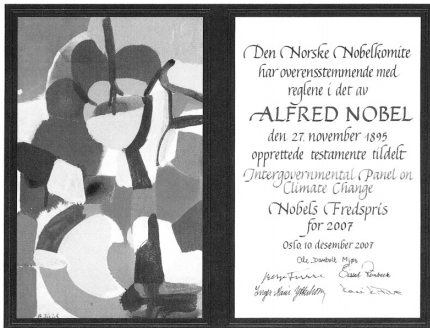
IPCCの発足以来、長年にわたり、その活動に多大の貢献を戴いた方々に対してこの賞状を授与しています。

貴方の立派な功績に対して与えられたこの記念の品を誇りとして大切にしてください。

お祝い申し上げます。

敬具

IPCC議長 R. K. Pachauri



INTERGOVERNMENTAL PANEL ON CLIMATE CHANGE  
PRESENTED TO  
**TOSHIAKI OHGITA**  
FOR CONTRIBUTING TO THE AWARD OF THE  
**NOBEL PEACE PRIZE**  
FOR 2007 TO THE IPCC  
R. K. Pachauri  
IPCC Chairman  
R. Christ  
IPCC Secretary

# 《らしさ》は、何処へ？

今 西 宏  
(中20回卒)

## 誓詞

吾等は奈中生なり、行住そ  
の矜持に生き、誓って國土魂  
を錬成し、以て各自の利器を  
成就し、皇運扶翼の國士たら  
んことを期す。

「誓詞」は、昭和十四年五  
月二十二日、昭和天皇が「青  
少年ニ賜リタル勅語」を下賜  
されたのを受けて、昭和十四  
年六月に制定。

## 校歌

① 青山ごもれるうるわし大倭  
はつくに治しし御稜威を仰  
ぎたふとき祖国の干城はわ  
れと鍛ふる健児が力を見ず  
や

② 八重咲く櫻と匂えるやまと  
栄えし七代の跡をば受けて  
開くる文化の先駆はわれと  
培う健児が心を見ずや

右の『誓詞』は、奈良県立  
奈良中学校一年生に入学した  
日から、敗戦日まで、毎朝礼  
時、最上級五年生で成績が首  
席の級長（現在の学級委員長

でない）の先導で斉唱し、  
『校歌』は必要に応じ合唱し  
た。

誓詞の『國土魂』『皇運扶  
翼』『校歌の『御稜威』『干城』  
が死語となったのは敗戦後、  
連合国軍最高司令官マッカー  
サーの戦勝国施策による民間  
情報教育局が中心となって軍  
国主義、全体主義、国家主義  
などを排除したが、その一つ  
が同年十二月十五日付、日本  
政府に対する覚書「国家神道、  
神社神道ニ対スル政府ノ保証、  
支援、保全、監督並ニ弘布ノ  
廃止ニ関スル件」、いわゆる  
「神道指令」です。これによ  
り、日本語としての意味の連  
想が国家神道、軍国主義、国  
家主義と切り離せない判断  
されて、「大東亜戦争」や  
「八紘一宇」などの用語を公  
文書で使用することが禁止さ  
れた。時代の趨勢とは言え、  
慚愧に耐えない。  
この「神道指令」について

は、寧楽文化講座・第十三話  
で《やまと（倭・日本）考》  
を講演された皇學館大学名誉  
教授で元学長であった（故）  
西宮一民先生から拝聴してい  
たので、拙い弔辞で寧楽文化  
講座のHPに記載している。

さて、前文が長くなったが  
本旨は次の通りである。  
連日、北海道から沖縄まで  
の日本国中で、殺人事件、特  
に尊属殺人が頻発し、他の新  
犯罪も多発している現況は異  
常を超えているところ、昭和  
一桁生まれの私には納得がで  
きない。それは、男らしさ、  
女らしさに始まり、親らしさ、  
子供らしさ、夫らしさ、妻ら  
しき、兄らしき、弟らしき、  
姉らしき、妹らしき、友らし  
き、校長らしき、教師らしき、  
生徒らしき、先輩らしき、後  
輩らしき、議員らしき、公僕  
（司法官、行政官）らしき、  
社長らしき、課長らしき、○  
社の社員らしきなどは、教  
育勅語の三百十五字の明文に  
示されており、あらゆる名詞  
の下に付いていた「らしさの  
消滅」によって、社会秩序の  
崩壊が加速度を付けて進行し、  
家庭環境の大改悪に拍車がか  
かっている状態は、日本文化

の美徳が消滅しつつある明白  
な証左である。

この教育勅語・三百十五字  
の何処に不都合があるのか？  
先ず見たのか？ 読んだのか？  
明確な、ご指摘を頂きたい。

これは、前記「神道指令」  
に悪乗りした「日教組教育」  
による教育勅語の抹殺に他な  
く、かつ、明らかに行き過ぎ  
た人権教育の差別撤廃で惹起  
された「言葉狩り」による  
「らしさ」の抹消抹殺が由で  
あり、さらに遡れば、大東亜  
戦争に勝利したマッカーサー  
が命じた遡及事後法の国際法  
での、東京裁判の判決を金科  
玉条としたことであって、日  
本人によった大東亜戦争を繪  
括していないことが真因であ  
る。  
約六十六年の昔、私たち奈  
良中学校一年生は登・下校の  
際、上級生の週番による監視  
があり、端正な制服、二列縦  
隊、左側通行で、凜々しく、  
整然と、先輩と行き交えば、  
必ず、挙手で敬礼（挨拶）し、  
英単（英語の単語帳）などを  
読みながらの歩行は許される  
も、昨今、当たり前の如き飲  
食物を手にした歩行などは論  
外であり、これに反すれば、

控所（雨天時の集会所・体育  
場）の週番室で「鉄拳制裁」  
を喰らったものである。故に、  
他校生とは、一目瞭然として  
判別されたが「奈中生らしき」  
として、奈良中学生約七百五  
十名の「矜持の一つ」であっ  
たのである。

昭和二十三年九月、学制改  
革で県立奈良中学校と市立高  
等女学校が併合して県立奈良  
高等女学校が誕生したが、昭和  
廿五、六年頃、市立高女から  
転任された家庭科の故出口寛  
枝先生が、デザインされた  
『ジャンパー&スカート』の女  
子制服はオリジナルで斬新  
の故に評判が良く、かつ、瞬  
時に夜目遠目笠の内ではなくと  
も、死語となった『容姿端麗・  
才媛の奈高女子学生』と認識  
され期待されることで、他校  
を倣って派手な風潮を求めず、  
約六十年に及ぶ伝統のデザイ  
ンを愛用する「通学姿」に、  
奈良高校の「女子学生らしき  
と矜持」を見受ける。  
(故) デザイナー出口寛枝  
先生の微笑みに、謹んで追悼  
を捧げるとともに、ジャンパー  
&スカートの制服がいつまで  
も矜持の印である、と期待し  
祈念します。 合 掌

## 『奈良・大和から日本をかنگえる』



国際日本文化研究センター 教授

奈良県立図書館長 千田 稔 (昭36年卒)

明治に首都が京都から東京に移った時、京都の経済人たちが「京都は第二の奈良になってはならない」と、実に不愉快な言葉を吐露した。「第二の奈良」というのは平城宮址を指すもので、「京都は奈良のような草原になってはならない」という、京都人の悲壮な覚悟

であった。だが、「草原の平城宮址」であったが故に考古学の発掘調査により、平城宮の実体が着実に解明された。反面、近年の京都の景観俗化は甚だしい。奈良・大和が精神性を軸として地理的空間を保ってきたのに、京都はエンターテインメントの都市となってしまった。

都の文化は、非農業者らにより生成され、「垢抜け」と「洗練」を絶え間なく目指すが、究極的にそれを保つことはありえない。いつか、どこかで限界に達し、「爛熟」の時代を迎える。都の文化は、創生の時期から徐々に力と情熱によって、一定の完成の域に達するまでは若々しさを発揮するが、「爛熟」に至ると力と情熱は失われ、文化を「弄ぶ」様相を帯びる。

奈良・大和の文化と歴史は、邪馬台国、磯城、磐余、飛鳥、藤原京、平城京、平安京へと都が移った500年余の間、1000年の都と言われる京都には及ばないが、大和の盆地で日本の骨格を形成し、遷都を繰り返しながら日本の首都として、日本文化の発信地として、立地した意義は無視し難い重さがあり、「爛熟」する暇もなくたくましく成長し、今日の日本文化発祥地として、名実ともに重要な役割を果たした。

佛教を例にとると、欽明朝に磯城嶋金刺宮に百済からもたらされたが、飛鳥寺の創建に象徴される時代を経て、白鳳文化を生み出し天平文化へと継承された。この日本文化の青春時代というべき澆刺とした表情は奈良・大和にしかない。現在も、奈良・大和において、この国が闊達な意気込みで駆け抜けた時代の風景に出合うことができる。京都にも東京にもそれを見つけることはできない。そこには、歴史の初々しい面影がない。

「日本」という国号が生まれたのは8世紀初頭前後、都が飛鳥か藤原京にあった頃である。その点からも「日本誕生の地」である。奈良・大和の文化を、京都や鎌倉と同じ次元で論じては後世に大きな禍根を残し、これまでそれを見抜けないで、奈良市中心の「官制の観光地施策」を続けてきた。今、新しい奈良を創造しなければならない時代がやってきた。

寧楽文化講座第20話記念スペシャルフォーラム

美しい奈良、はじまりの平城 (H19.06.23.) より引く



## 記・紀、万葉と佐保路と大伴家持



寧楽文化講座 編集長 辻 中 昊 (中20回卒)

奈良盆地という、このような古代社会の器を散策する魅力はさまざまです。特に興味深いのは、盆地の四方を囲む山々、すなわち青垣山とその裾野の地を訪ねることです。盆地の平野部（くんなか国中）が、古代社会の中心となるのは奈良時代（710年以後～）であって、それまでは、盆地四周の山裾がそれぞれ独自の歴史を展開させてきました。

青垣山裾の東側には山辺の道が、西側には葛城の古道が、南側には紀路が、北側くにざかいの国境には佐保路がありました。この青垣の連なりには、変化に富んだ美しい風景と素晴らしい風光が横溢し、また、歴史の残影と過去を求める好奇心を掻き立てられます。

奈良盆地の北辺と京都府相楽郡木津町との境界線となる、標高が約100メートル前後のなだらかな低丘陵は東西に伸びて、一般には「ならやまきゅうりょう平城山丘陵」と呼称されています。

この丘陵は、ちょうど真ん中あたりで谷状となって分断され、低地部には現在、南北に国道24号線、ならびにJR関西線が走行しています。

藤原京から平城京に遷都されたことで、この丘陵南面の東はてがい転害（手貝）門から西は法華寺までが一条南大路と呼ばれるようになりました。すなわち佐保路ですが、山辺の道と同じように平城京が造営される遙か昔からありました。

この佐保路は、平城山丘陵と佐保川と同一体の形で古くから、少なくとも4世紀頃から、日本の歴史、『古事記・日本書紀』の表舞台に登場します。そこには当然として古代の人々の喜怒哀楽が歌われ、現在も私達の日常生活へと続いています。今、この奈良高校が建っているこの場所が、4世紀代の人々も同じく座ったり、歩いたりしていた場所でした。

お許しを得なければならないことは、『記・紀』『万葉』の時代の「佐保路」と「おおとものやかもち大伴家持」については、私は一介の案内人であって、偉い歴史学者でもなければ、万葉集をすみからすみまで研究している国文学者でもありません。ただ、私は、家持が好きであって興味があり、自分自身が歩いて感じ、優れた学者先生の論文を読み、私なりに話の組み立てをしてご理解をいただける「語り部」としての役割を果たしたいと思っています。「講釈師、見てきたような嘘を言い」とは言わないまでも、65年昔、奈良中学生であった私が、この佐保路で育った者の一人として、精一杯の夢物語でございます。

寧楽文化講座第9話（H18.05.18.）より引く

## 寧楽文化講座 平成21年度公開講座日程

H21.1.19

第33話 青垣サロン&amp;寧楽文化講座 奈良市北部会館市民文化ホール

日 時 平成21年5月16日(土)、13:30~15:30

演 題 対談・『都市のまちづくり』

講 師 藤原 昭 奈良市長 (京都大学大学院工学研究科修士課程修了)

早川 和男 神戸大学名誉教授 (建築学・総2回卒)

司 会 村上 泰昭 青垣サロン&amp;寧楽文化講座 会長 (中20回卒)

第34話 青垣サロン&amp;寧楽文化講座 奈良県立図書情報館

日 時 平成21年8月29日(土)、13:30~15:30

演 題 対談・『自然環境と植物』

講 師 菅沼 孝之 元奈良女子大教授 (植物学・奈良植物研究会副会長)

森本 範正 元天理高校教諭 (植物学・奈良植物研究会幹事)

第35話 青垣サロン&amp;寧楽文化講座

第5話 山辺の道・北道を考える会 奈良県護国神社

日 時 平成21年10月17日(土)、13:30~16:30

演 題 討論会・『山辺の社寺宗教家が、昨今の世相と道徳を考える』

講 師 宮田 康弘 奈良県護国神社 宮司

宮崎 快堯 白毫寺 住職 (定総・昭27年卒)

倉本 堯慧 帯解寺 住職 (昭39年卒)

高井 良教 弘仁寺 住職

大原 弘信 正暦寺 住職 (昭47年卒)

司 会 辻中 昊 山辺の道・北道を考える会 編集長 (中20回卒)

第36話 青垣サロン&amp;寧楽文化講座 奈良市中部公民館

日 時 平成22年1月23日(土)

演 題 対談・『国際法と国内法』

講 師 細田 靖男 弁護士 (中20回卒)

森岡 正宏 前衆議院議員 (昭36年卒)

# 高校生活をふりかえって

新村 藍

(平20年卒)



寒さも緩み、春らしくなつてまいりました。奈良高校の皆様並びに卒業生の皆様、いかがお過ごしですか。この春卒業する皆さんは期待と不安でいっぱいだと思います。私も皆さんと同じ気持ちで昨年の春卒業したのを覚えています。

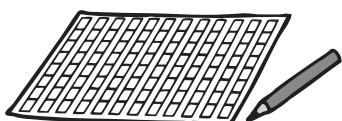
現在、私は大阪府立大学、生命環境科学部に在学し植物バイオ分野を中心に勉強しています。高校生の時は漠然と農学を学びたいと思っていただけでしたが、今やっとその夢が形になってきたと感じて

います。大学と高校の違いは、視野が大きく広がるという点です。大学には様々な国からの留学生が在籍されていますし、私が受けている韓国語の先生からは韓国の文化や韓国人と日本人の考え方の違いなどを学ぶことができます。生物、化学分野でも海外に目を向け幅広い知識を身につけることができます。一方、大学は恵まれた環境なのですが、自分が積極的に学ぶ努力をしなければ、無駄に過ごしてしまう場所でもあります。今、私が充実した毎日を送り貴重な経験ができるのは、奈良高校で過ごした三年間があるからだと思います。奈良高校の先生方、先輩、友人、そして奈良高校の校風が今の私

を支えてくれていると言っても過言ではありません。大学でたくさんの人に出会いますが、人格形成は高校までに行われると痛感しています。植物や動物が環境に適応するように、人間も周りの環境に強く影響される生き物だと思います。入学当初、奈良高校の伝統と校風に圧倒されました。一番驚いたのは生徒総会です。初めて参加した時、先生の力を借りず生徒主体で奈良高校を造り、動かしていく、正に「自主創造」の理念を心に刻んだ先輩方の姿勢に熱い感動が込み上げてきました。青丹祭、体育祭でも奈高生パワーが漲っていました。準備の段階から大盛り上がり、一人がやる気を出せば、みんながそれに続くという雰囲気がとても心地良かったです。ダンス愛好会を結成できたのも奈高生が備え持つ主体性があったからだと思います。ダンス愛好会は部活動ではないので顧

問がいなくて、練習室の確保が難しかったのですが、振り付けから衣装まで全て自分達で決めるというスタイルが奈高生らしく、先輩もそんな私達に付いてきてくれました。今年度の青丹祭で私達以上の素晴らしい演技をする後輩達の姿に受け継がれる奈高生の行動力と奈高の伝統を再確認しました。

奈高生はイベントだけでなく、勉強にも全力投球することとは言うまでもありません。私は胸を張れるほど優秀な成績を修めることはできませんでしたが、奈高の個性的で熱心な先生方と、友人達の勉強に向かう姿勢を目にしていたから苦しい経験を乗り越えることができましたと思います。朝早くから進路室で頑張っている友達の顔を見る度、負けていられないと自分を奮い立たせました。焦りや不安に押し遣されそうになる時もありましたが、同じ状況に屈せず机



に向かう真剣な姿を見ていると、まだまだ私も頑張れるという気持ちがいってきました。本当に奈良高校に影響され続け、大きく成長できた三年間でした。卒業して一年たった今、校歌の歌詞をいつも思い出すようにしています。「真実の自由 責任にめざめて 志操を高め ゆたけき個性養ふべく 我等日々はげむ」私が奈良高校で学んできたことが表現されている素晴らしい歌詞だと思います。このフレーズを胸に、奈良高校の伝統が変わらず受け継がれ、さらなる発展を遂げることを願っています。



ともしび会だより

たそがれ（二〇〇八年）

湊 敏子

（定・昭37年卒）

夫あくび天下泰平寝正月

沈黙の孤独をいでる春日和

五十路きて喜怒哀楽の春惜しむ

風紋に幾星霜の秋思かな

砂山に影法師二つ暮れの秋

好物の大根煮るや古女房

闘病の生活に慣れて冷奴

趣味に始めた拙い俳句を披

露します。

甲子「二〇〇八年」松の内

も過ぎた頃夫が「今年は成人式や!!」と宣ふ。私は誰の事

かいな???と問い返す。

「急性膵臓壊死より生還して



今年丁度二十年目：生れ変わったの成人式：。」振り返ると闘病の日々。神経を尖らせ

カリリーのコントロール等々

大事に大層に過こして来た日々

であった。夫に言われてふーっ

と息を抜いた。この節目まで

合併症の心配など気が抜けない

生活であったから。

思い起せば地獄か天国行か

を閻魔さんに追いつ返えされて

十ヶ月後の職場復帰であった。

出勤後しばらくは、「おっ脚

があるわあ：。」「幽霊やない

かー：。」と出会う人毎に喜こ

んで下された由。無事に早め

の退職、病身をいたわり乍ら

西国三十三ヶ所、四国霊場八

十八ヶ所、番外二十ヶ寺、そ

の逆打ち、関西花の寺二十五

ヶ寺と喘ぎ乍らも充実の日々。

二〇〇八年七月第七回とも

しび会総会に夫婦で久々の出

席。開会冒頭、物故者に黙祷

を捧げながら病と闘い乍らも

今日まで生かされている身の

幸せを深く心に刻み感謝の念

で頭を垂れる。私の兄も同窓

生。昨年、病を得て六ヶ月で

逝く。夫は極力人前に出る事を控えていたので恩師、同窓の方、同級生と懐かしい再会であり私も反省やら元気を頂いた誠に良き一日で御座居ま

した。次の目標を喜寿と秘かに祈ったことでした。長寿社会の現在、やはり自分の身体は自己管理で元気に過ごしたいものです。冒頭の句、女性の長命に備え趣味の一つに始めた作品です。六十の手習いは無理かと思ひ多忙でしたが飛び込んだ道。月日を重ねる老体に程良き物となりけり。

味料を借りに来られるそうです。先日「お母さんの所の自家製ボン酢美味しいから下ださい」と言われたそうです。ご主人が調合されるので、作って渡すと、「だまって持ってたわ」とのことでした。居合わせた人は、もうすっかり家族の一員に成っているのよ。と言われていました。言葉は声にしないと相手に通じません。

「ありがとう」の言葉

ともしび会会長 藤田勝美

（定・昭36年卒）

ある日、小学一年生の孫の授業参観を見せて頂きました。

授業が終わり、帰り支度をして最後の挨拶を全員でするとき、児童全員で「先生ありがとうございました」「さようなら」との挨拶の言葉でした。

私は「ありがとうございまして」の言葉に少し驚きました。どんな意味何だろうと、思ったのです。後で娘に聴くと、「ありがとう」という言

葉を言わない子が多いので、こんな形で日頃から言えるように使っているとの事。

他のクラスは違うみたい。とのことでした。

先日、地域の集まりで息子さんの家族と同居されている方が、「この頃の若い人は（ありがとう）と言わない」と言われました。この方の家庭では食事は別々に作っているそうです。ですのでよく調

孫は担任の先生の指導で挨拶の出来る子、「ありがとう」の言える子に成って欲しいと思います。次の様な詩があります。

やさしい言葉 清水英雄作

ありがとうは 相手の存在を十分認める言葉

ありがとうは 相手の親切をかみしめる言葉

ありがとうは 相手のプレゼントを受ける言葉

ありがとうは 相手の誠意を引き出す言葉

ありがとうは 相手の立場を思いやるやさしい言葉

つどい会だより

我がふるさと

西村 寿子

(通・昭56年卒)

かつて栄えた織田藩松山城の門前町「大宇陀・松山地区」そこで私は二十代半ばまで過ごしました。「聞けや宇陀川のさやけき瀬のと絶えざる時代の歴史を語る古き文化の跡をふみて」と、かの有名な佐々木信綱さんが作ってくださった母校の中学校歌の歌詩にもあるように由緒ある所です。その大宇陀を、つどい会恒例秋の「散策」で有志と訪れる機会を得ました。

かつて栄えた織田藩松山城は数件に、芝居小屋や映画館、鍛冶屋さん、産湯からお世話になった銭湯や、目立て屋さんなどすっかり姿を消してしまいい時代の流れと共に変貌してゆく様をまざまざとが見せつけられたふるさとはいささか淋しさも感じました。伝統の吉野本葛はじめ、醸造醤油屋さん、近所にあった二軒の酒蔵は世代を代えて今なお操業されておられ過疎化している中であってふるさは平成十八年一月一日四町合併で宇陀市となり区政が導入されました。

沢山の思い出があるふるさと、中でもかぎろひの里には万葉集で詠んだ柿本人磨呂の「ひむがし(東)の野にかぎろひの立つ見えてかえり見すれば月かたぶきぬ」の句碑があり、俳人正岡子規の弟子・青木月斗が晩年を過ごした佐田神社や又兵衛桜、阿紀神社、大願寺、森野旧葉園等があります。かぎろひの里や秋山城跡など小・中学時代の学習の場、遊びの場として悠々自適に育んだ場、あの頃がとても懐かしく、かぎろひの丘万葉公園では万葉歌で詠まれた阿騎野の地で毎年一回「かぎろひを観る会」が開催されます。「かぎろひ」とは厳寒のよく晴れた日、日の出の約一時間前に太陽光線のスベクトルにより現れる最初の陽光のことですが過去四十年で数回しか観られておらず私も写真でしか見たことがあります。

歴史と豊かな自然の良き環境につつまれた門前町「大宇陀」、歳を重ねてきた今だからこそ「ふるさと」の良さと温もりを感じとれるのかも知れません。

今後のつどい会活動について

桑原 秀教

(通昭57年卒)

平成二十年三月二日に開催された閉課程式で私達の奈良高校通信制は幕を閉じました。私達つどい会は本来「同窓会」なので、十四年前の発足時に誓った熱い思いも、卒業生の皆様が交わした感激の声も、永遠に続く様に考えていました。が、今母校に立ち寄っても、通信の先生も、通信の職員室も当然の事ながら在りません。入学式も卒業式も有りません。母校のホームページにも、通信制の記事は存在しません。閉課程になるということは想像以上に厳しい現実なんだということをしみじみと感じています。

【今つどい会で行っている活動】

- ・宝相華会会報誌「宝相華」への投稿(三月一日発行分・九月一日発行分)
- ・つどい会総会の開催
- ・奈良散策(春の部・秋の部)
- ・宝相華会総会への出席
- ・「宝相華」の購読推進

【今後の課題として】

- 一、会の中心となって活動していたメンバーが、高齢化、諸事情等で参加が厳しくなってきた。(私を含めて)
- 一、初めて参加された人が、次に来られなくなる理由が、知っている人が居なくて疎外感を感じておられるようである。

しかし宝相華会の藤本会長さんからは、「会則により奈良高等学校の卒業生および修了生を以って会員とする」ということで、私達つどい会はどこまでも「奈良高等学校同

一、卒業後の日常が多忙で、参加したくても出られない。  
 一、何らかの原因で、つどい会との関わりを迷惑に感じている。  
 一、つどい会からの連絡が届いていない。  
 以上のことをふまえて

【今後の活動について】  
 ・つどい会総会は親睦会を兼ねた昼食会のようなかたちで開催したい。  
 ・宝相華会総会に誘い合わせて多数の参加を。  
 ・卒業年度毎の「クラス会」を活発に開催し、恩師を囲み旧交を。  
 ・会報誌「宝相華」の購読を推進。今後も、つどい会からのお知らせを会報誌の紙面に掲載させて頂く予定。

以上今後のつどい会の活動の一環を述べましたが、あくまでも私の所感として書きました。  
 第十四回総会で審議させて頂きたくてです。

### 奈良散策便り

第四十九回奈良散策  
 (大字陀かぎろひの里)  
 総勢十一名  
 西村さんの案内で散策に

後列  
 中川 神谷 石田 山本  
 表 長谷川 桑原 上田  
 野本 西村  
 上杉

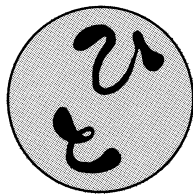


### 平成二十一年度 行事予定のお知らせ

- ◆ 第五十回奈良散策 (平城宮跡)
- ◆ 実施日 平成二十一年四月五日(日)
- ◆ 集合場所 近鉄西大寺駅北口
- ◆ 散策コース 平城宮跡 遷都一三〇〇年を前に

- ◆ 集合時刻 午前十時
- ◆ 解散時刻 午後三時頃
- 昼食は各自お弁当持参
- ・「宝相華」第六十号(九月一日発行)への投稿
- ◆ 第五十一回奈良散策 (奈良公園)

- ◆ 実施日 平成二十一年十一月一日(日)
- ◆ 集合場所 近鉄奈良駅 行基像(噴水)前
- ◆ 散策コース 奈良公園
- ◆ 集合時刻 午前十時
- ◆ 解散時刻 午後三時頃
- 昼食は各自お弁当持参
- ◆ 第十五回つどい会総会平成二十二年春の予定



### 叙勲 平成二十年

瑞宝中綬章  
 竹村 昭氏(中19回卒)  
 奈良教育大学名誉教授

### 瑞宝小綬章

中嶋 明範氏(総4回卒)  
 元大阪城東郵便局長  
 井阪 雅宥氏(恩師)  
 元公立高校長

### 旭日双光章

高木 讓氏(昭31年卒)  
 日本中古自動車販売協会連合会副会長  
 木下 尊通氏(昭33年卒)  
 薬業界功労

### 瑞宝双光章

木口 富男氏(昭28年卒)  
 元公立中学校長  
 村井 偉夫氏(昭29年卒)  
 元公立中学校長

### 受賞 平成二十年

文部科学大臣賞  
 学校長・武村 純一氏  
 (昭42年卒)  
 学校教育功労

### 訃報

永島福太郎 先生  
 元教諭  
 平成二十年八月十日 逝去

堀井 清市 先生  
 元校長  
 平成二十年八月五日 逝去

小山田浩三氏(中9回卒)  
 宝相華会常任理事  
 平成二十年十二月十九日 逝去

安達 尚栄氏(昭35年卒)  
 宝相華会常任理事  
 平成二十一年一月二十三日 逝去

ご逝去に対しここに衷心より哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈りします。





# 温故知新

齊藤 俊治氏 (中19回卒)

奈中魂 純忠至孝に生きる

二元教諭

(昭38年〜48年迄在職)

人には、故郷があるように、学校にもその生立ちがある。そしてそこに培われた歴史と伝統といったものが、今日を型成しているといっても過言ではあるまい。

そこで、戦前の奈中魂育成に関する資料として「誓願」を紹介したい。

(昭十九年頃の生徒必携より)

## 誓願

奈中魂の育成

一 吾等皇國の民が一事一行を判断すべき結局の標準は忠と孝となり 忠と孝とは實に吾等が脚下に在り 吾等奈中生は不斷の一事一行日常茶飯の事の上心に肝を盡し私心を去つて以つて忠と孝とを具現し皇運扶翼を行ずるの國土たらざるべからず 青年たるの意義は前途に洋々たる大望を有することと存す 吾等は須らく大なる夢を懐くべし 未來のXを現在の努力を以て解くべし 斯るが故に吾等奈中生は自敬以て將來の建設に邁進し分陰を惜んで刻苦勉勵せざるべからず 刻苦勉勵は區々たる點數と席次とに拘泥するがためにあらざるなり 品格を高め行動を謹慎するは徒らに外面の體裁を粧はんがためにあらざるなり 小手先のみ器用なる才子や直に閉口垂る、蒼白き秀才は國歩艱難なる現代日本の要求する國土たる能はず 現代日本の要求する國土は如何なる苦難をも克服する頑健なる體軀と潤達雄偉なる氣魄とを以て忠肝義膽に生くるものたらざるべからず 吾等奈中生は體力と精神力との鍛錬に没頭して如何なる誘惑をも意に介せず 鉗鉋は須らく嚴たるべし 如何なる猛列なる鍛錬にも毫も閉口垂る、ことなく却つて益々反撥猛擊の力を増し來るは吾等奈中生の誇なり

二 男子の爲すところは常に昂然として恥ぢざる肚裏より發し些事にも全力を傾注して聊かも婦女子の態あるべからず 吾等奈中生の爲すところに常にこの心境によつての進退なり 而して小事に雖も全力を傾注す 學ぶにも全力 休むにも全力 陽にも全力 陰にも更に全力 斯るが故に奈中に在りては運動と學習、遊戲と勉學、教場と場外との區別を嚴にす 常に全力を傾注するところ 學習、勉學、教場に於ける態度は自ら黙寂に歸す 運動、遊戲、場外に於ける態度亦全力を込めて明朗活潑たらざるべからず 斯る區別ある處青年の純眞はじめて具現せん

## 五

道を學ぶものの態度は師父に隨順するに在り 吾等奈中生は父母と恩師の教誡に絕對に隨順し純眞無邪氣に信奉して刻々の精進を怠ることあるべからず

## 六

陽に信順して陰に貶毀し表に尊敬して裏に侮辱するが如きは青年男兒の最も唾棄すべきところなり 吾等奈中生は表裏一致、師父を尊敬し學友を信愛し以て光風霽月の心境を持せざるべからず

## 七

吾等奈中生は學習の困難を意氣と熱とを以て征服せざるべからず 猛然奮起 飽くまでも追究を措くことなからず 奈中に於ける學習は實に戰場に於ける眞劍勝負なり

## 八

事上磨練これ人間錬成の大道なり 一事一行皆人間修練の好機ならざるなし 此を以て學校と家庭と社會とを問はずあらゆる場所即ち道場たり 洒掃は道に入るの門一室の洒掃は一心の洒掃なり 其の努力即ち行なり 斯くして勤勞作業も同様に於ける 食事も行なり 歩行も行なり

## 九

些物の取扱ひも行なり 吾等奈中生は事上に磨練して著實眞撃なる人物たるを期せざるべからず 事上磨練に當りては男子の本領を發揮し心肝を鍛ふるに意を用ひざるべからず 自ら鍛へず將來世人の願使の下に得々たる人物たり終るが如きは吾等奈中生の恥辱とするところなり 吾等奈中生は隨所に主と作るの修練に自ら深く潜心せざるべからず 吾等奈中生の誓願以上數項に岐れたりと雖も日常不斷の實踐は一なり 彼此みな究竟するところは純忠至孝に生くるに歸す 此れ即ち教育勅語の躬行にしてまた青少年學徒ニ賜ハリタル勅語に對する奉答なり 此れ即ち皇運扶翼の國土たることなり 而して實に此は奈中魂の體現なり 吾等奈中生は奈中魂に鍊成に一刻も懈怠あるべからず 總身これ奈中魂になり切らざるべからず 吾等は奈中魂の顯揚を以て自ら敢て天下に誇示せん 吉田松陰は曰く 松下雖陋と自信となくして可ならんや

## 住所変更等のお願い

同窓会では、会員の左記の内容をコンピュータに登録させていただいております。ご住所以外でも変更があれば、お知らせ下さい。次の内容をご通知頂ければ、事務局の名簿を訂正致します。

- ①氏名(旧姓名も併記)、②会員番号(または、卒業年次)、③自宅住所、④自宅電話番号、⑤勤務先・役職名、⑥勤務先電話番号
- ☆可能な限り、ハガキまたはファックスにてお願いします。

お知り合いの中で栄誉(勲章や褒章等)を受けられた方があれば、お知らせ下さい。

## 原稿募集について

次号以降の原稿を募集しております。支部会、同期クラス会、クラブのOB会などに関するお知らせや事後のご報告、また、在校中の逸話や思い出、あるいは、現在の同窓諸氏の動向や趣味のことなど、多くの方のご寄稿をお待ちしております。ご寄稿者ご自身のお写真や内容に関する写真も、ぜひ、お寄せ下さい。掲載につきましては、編集者にお任せ下さい。

☆ご寄稿は、同窓会事務局まで、会員番号(又は、卒業年次)ご連絡先(住所・TEL)を明記して、お願いします。

## ◎ 連絡先

〒六三〇一八二三 奈良市法蓮町八三六番地  
 県立奈良高校内 宝相華会事務局  
 TEL〇七四二一三三二八五五  
 FAX〇七四二一三三二四三九五